

もっと知りたいスウェーデン

EXCELLENT

SWEDEN

エクセレントスウェーデン
ケアリング

CARING

VOL.23

支えあう世界に

“SDGs”, promise for the future

自治体が成功の鍵

若者の未来を考えて
企業は重要なパートナー

魅惑の新しき旅

氷河期の「ハイ・コスト」

歩みの先に見える

接続可能な社会

すべての人に最善のケアを

SDGs目標達成と医療分野へ幅広いソリューションを提供するゲティンゲ。
2025年までにカーボンニュートラルに挑む。

生命を救う

世界を襲ったパンデミックで注目を浴びた医療機器がある。体外式膜型人工肺（ECMO）だ。肺の代わりに体外で血液に新鮮な酸素を供給して戻す。世界中の医療チームがECMOを求め、増産に次ぐ増産でそれに応えたのがスウェーデン、ヨーテ

ボリに本社を持つECMOのトップメーカー、ゲティンゲだ。

ゲティンゲは世界38カ国に1万名を超える従業員を抱えるグローバルメーカー。集中治療、心臓血管手術手術室、滅菌再生処理、ライフサイエンスといった多様な領域にわたる製品・ソリューションは135カ国の病院やライフサイエンス関連施設で

画像機器と多機能手術台を組み合わせることによって一つの場所で診断と治療ができるハイブリッド手術室。リスクや治療の遅延を減らし、患者の安全性を向上させる。



Hideaki Yamashita ◆山下 秀明
 ゲティンゲグループ・ジャパン株式会社 代表取締役社長
 1962年、愛媛県生まれ。大学卒業後、薬品会社勤務を経て'92年フィリップス・メディカルシステムズ入社。2001年マック・ゲティンゲ入社。'04年マック・ジャパン代表取締役社長。'16年マック・ジャパンとゲティンゲ・ジャパン統合、ゲティンゲグループ・ジャパン株式会社 代表取締役社長に就任。

使われている。
 ゲティンゲは1904年スウェーデン南部の小さな町「ゲティンゲ」で農業機械の会社として始まった。1932年に医療用滅菌機の製造を開始し、医療分野へと舵を切った。手術デバイス用の洗浄器・滅菌器など感染管理関連のソリューションに加え、ドイツのマッケ社を買収し手術台や手術用照明器をはじめとする手術室向け設備に至るまで製品を拡大。さらに戦略的な買収により人工心肺人工呼吸器、心臓血管手術の領域にも手を広げ、手術室関連ソリューション、急性期治療に焦点を当てたビジネス分野でのリーダーとなった。
 日本ではマッケ、ゲティンゲと製品ブランド別に展開していた2社を統合し、2016年にゲティンゲグループ・ジャパン株式会社として新たなスタートを切った。手術室の設備・環境の構築から急性期治療のサポートまで、大学病院等の特定機能病院をはじめとする医療機関や製薬会社の製造工場に対し幅広い製品・ソリューションを提供している。
 同社のシヨールームをオンラインでバーチャル体験できる「ゲティンゲ エクスペリエンスセンター東京360ツアー」は全国の医療従事者関係者に好評を博している。

持続可能な企業へ

2020年7月、ゲティンゲは「2025カーボンニュートラル宣言」を発表した。

8項目を特定したSDGs

「国連の持続可能な開発目標「SDGs」は17項目。これらはゲティンゲグループにとってすべての面で相互関係にある。その中で次の8項目は、ゲティンゲが特に事業活動の中で最優先としてとらえている。
 「すべての人に健康と福祉を（目標3）」は医療機器業界で事業展開するゲティンゲにとって事業戦略の「環」と言ってもよいだろう。すべての人には、従業員、サプライヤー、代理店、お客様も含まれている。「質の高い教育をみんなに（目標4）」は、健康な生活の実現に欠かせない教育の向上が
 「再生可能エネルギーの割合は2019年の38%から43%に増加。一方、エネルギー消費量は3%減少。2300台の保有車はハイブリッドや電気自動車に移行する。
 「出張は環境とワークライフバランスへの影響を軽減するために、できるだけ飛行機は使わない。出張を減らしコストを削減、会議はオンラインミーティングに。デジタル化とペーパーレス化も進みました。物流面でも、航空輸送に代わり海上輸送や鉄道輸送が選択されるようになりました。日本でも2025年までに社有車をハイブリッドにする予定です」
 こう話すのは、ゲティンゲ日本法人の代表取締役社長、山下秀明氏。カーボンニュートラル宣言の下、世
 テーマになる。ゲティンゲは教育こそが貧困から抜け出す方法であるという強い信念のもと、インドの子どものための「プラタム教育プログラム」への支援を続けている。また科学技術とイノベーションの強化のために北欧最大の科学センター「ウニヴェルセルム」と提携し支援している。
 「安全な水とトイレを世界中に（目標6）」は持続可能なヘルスケアの基本テーマ。ゲティンゲでは製品のライフサイクル全体を通して水の使用量を削減するエコデザインによる設計や、国際的な非営利団体ウォーターエイドと協力関係を築いて、世界中の医療施設に清潔な水、衛生設備へのアクセスを向上させることを目的としている。
 「ジェンダー平等を実現しよう（目標5）」「働きがいも、経済成長も（目

企業と社会を繋ぐ「SDGs」

「持続可能な開発目標を実現するためにグローバルなパートナーシップと協力関係が重要だと考えます。お客様やパートナーと協力し、より持続可能な医療に貢献する製品やソリューションの開発に取り組むのは日々の業務の「環」です」
 医療関連の課題に対する拡張性のあるソリューションを特定・開発するために、学会、業界団体等とも連携。



スウェーデン・ヨーテボリのゲティンゲ本社(写真右上)。例えば洗浄器や滅菌器といった大型装置の製造においても、消費電力や水量低減を実現するエコデザインの思想が根付いている(写真右下)。スウェーデンをはじめヨーロッパ各地、米国、中国など世界9カ国19の製造拠点で環境負荷低減に取り組む(写真左)。



標8)「作る責任、使う責任(目標12)」そして「パートナーシップで目標を達成しよう(目標17)」。これらの目標は、ほとんどゲティンゲの企業活動そのものの規範のようだ。
 「女性の社会参画を推進するには、まず子育てを支えること、保育園・幼稚園を増やすこと、男性も家事育児をする環境を会社が整えることも大切です。男性も育児休暇を取り、有給も子育てに充てる。通勤時間もリモートワークで家族時間という意味もあります。育児や家事、介護など平等にサポートしようということですね」
 厚生労働省の「えるばし(女性活躍企業認定)」「くるみん(子育てサポート企業認定)」を取得する意向だと山下氏は明かす。
 男女格差の是正、多様性の向上、機会均等の確保、従業員の意欲を高め、生きがいを作り出し生産性を高めるゲティンゲは、さらに技術革新を推進している。
 「品質や価格、そういう経済的な価値だけでは評価されない時代が来ると思います。サステイナブルということもそうですが、社会全体の価値を考えていることを標榜している企業全面的にお客様のパートナーとなる企業になれなければ、社会的には評価されなくなると思います」
 グローバルパートナーシップを活性化(目標17)こそ、まさにゲティンゲの行動そのものだろう。
 2021年7月、ゲティンゲはWorld Brand誌のライフサイエンス部門で最も持続可能な企業として表彰された。
 国連の定める科学的知見に沿ったCO₂排出量抑制、廃棄物の削減、顧客満足度と従業員エンゲージメントの向上、プラタム教育財団への支援。一連の活動が企業評価を高めた結果だった。
 様々な持続可能性を実現するための活動は、ゲティンゲグループの企業価値を引き上げること、顧客への価値の提供に繋がり、社会的価値のあることだというゲティンゲの考えは、多くの人々の生命と地球の生命をも救っている。